

シロツメクサ

Trifolium repens

マメ科



シロツメクサ

名前の由来

江戸時代（1840年代）にオランダからガラスの器を運んだときに、割れないように箱の隙間に詰めてあった干草がこの草である。中に混ざっていたタネが芽を出し、花の色が白いからシロツメクサ（白詰草）の名がついた。

（別名は興味深い話の項参照）漢字名：白詰草

形態的特徴

高さ15～30cmで全草無毛。茎は地面を這い、ところどころから根を出す。葉は三つ葉状で、縁に細かい鋸歯がある3小葉に分かれ、6～20cmの葉柄を持ち茎から立ち上がる。葉柄の基部には細長い托葉があり、茎を抱く。葉は通常、三つ葉であるが、まれに四つ葉、五つ葉、六つ葉も見られる。花は白色で、30～80個の小花が集まって球状の花序に

なり、葉腋からのびる花柄の先にひとかたまりずつつく。花の色は白であるが、咲き始めの5月頃は、ややピンク色を帯びた花をよく見かける。小花は咲き終わった後下向きになり、そのまま枯れて中に種子の入ったサヤとなる。

類似種と見分け方

アカツメクサ（ムラサキツメクサ）、タチオランダゲンゲ。アカツメクサの花は紅紫色で、全草に毛があることがシロツメクサとの相違点。タチオランダゲンゲの花は淡紅色～白色で、全草に毛がないためシロツメクサとよく似ており区別は難しいが、タチオランダゲンゲは茎が地面を這わず

に立ち上がり、茎上方になるほど葉・花の柄が短くなることが相違点となる。タチオランダゲンゲとシロツメクサはしばしば混生するため、見分けるには注意が必要。



シロツメクサ



類似種、アカツメクサ



類似種、タチオランダゲンゲ

生活サイクル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
開花期		■											
結実期			■										

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)
草花

(外来種)
草花

哺乳類

(水辺)
鳥類

(草原・樹林)
鳥類
ワシ・タカ

生育環境・分布

道端や空き地、堤防、畑地周辺、牧草地など。

分布：国外分布は、ヨーロッパ（原産地）。牧草として世界中に広まったとされるが、詳しい分布は不明。

国内分布は、全国。

北海道内分布は、全道。

十勝地方では、道端や空き地、堤防、畑地周辺などに普通に見られる。日当たりの良い場所ではしばしば群落をつくる。



シロツメクサ。堤防法面などでよく大きな群落が見られる

生活史

開花時期：5月中旬～8月

開花までの年数：不明

寿命：多年草

他生物との関わり

ツバメシジミ、モンキチョウ幼虫の食草となる。

花の蜜を吸いに昆虫が訪れる。



ツバメシジミ。
幼虫時シロツメクサを食草とする

(撮影-吉原利之)

興味深い話

■別名はシロクローバー、クローバー、オランダゲンゲなど。

■明治時代初期に牧草として導入・栽培されたものが野生化して日本各地に広がった。

■葉は通常3枚の葉がついた三つ葉だが、まれに4枚のものもあり“幸せを呼ぶ四葉のクローバー”として喜ばれる。ごくまれに5枚、6枚のものもある。

■四つ葉～六つ葉は成長点が傷つけられたためにできたものであり、奇形といえる。道端などのよく踏まれる場所で見つけることができる。

■アイルランドの国花である。花を編んで花冠、花の茎を交差させて草相撲、など多くの草遊びが親しまれている。

■シロツメクサはタンニンや樹脂、脂肪などの成分を含んでいる。ヨーロッパでは、つぼみや花のまま採取して日干しにし、それを煎じて、風邪や鎮痛、痛風の体質改善薬として服用する民間療法がある。

■シロツメクサの葉にはV字の模様がついているものがあるが、この模様のつき方は遺伝によって決まる。また、V字模様は遺伝的に優性であり、V字の模様がついた葉と全く模様のない葉が交雑した場合、その子どもはV字の模様

がついた葉を持つことがわかっている。

■ハチミツで「クローバー蜜」とはシロツメクサの花の蜜でできたハチミツである。

■ハコベ(ナデシコ科ハコベ属)に近い仲間にも「ツメクサ」(ナデシコ科ツメクサ属)という種類があり、十勝でも道端や畑地などで普通に見られるが、こちらの「ツメクサ」は「爪草」であり、細く短い葉の形が鳥の爪に似ていることから「ツメクサ」という名がついた。



シロツメクサの葉。三つ葉で1つの葉（三出複葉）まれに四つ葉のものも見られる

参考文献

「日本野生植物館」奥田重俊編著 小学館 1997

「日本の野生植物-草本II-離弁花類」佐竹義輔・大井次三郎他3名 平凡社 1982

「原色日本帰化植物図鑑」長田武正 保育社 1976

「北海道帰化植物便覧」五十嵐博 北海道野生植物研究所 2001

「北海道植物図譜」滝田謙讓 自費出版 2001

「北海道の花」鮫島淳一郎・辻井達一・海沢俊 北海道大学図書刊行会 1993

「名前といわれ 野の草花図鑑3【続編の一】」杉村昇 借成社

1987

「北見の蝶」木村辰正 北見市教育委員会 1994

「京都新聞ホームページ（『山野草』のコーナー）」

<http://www.kyoto-np.co.jp/index.html>

http://www.kyoto-np.co.jp/kp/koto/sanyaso/san_index.html

『野草かんさつ事典』

<http://member.nifty.ne.jp/koso/plant/sirotumekusa.html>

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 花

(外来種) 花

哺乳類

(鳥水辺) 類

(葦原樹林) 鳥類